

大名地区の入込み来街者数 54,755 人 3年で約1万人増加

大名地区歩行者通行量調査(2003.11)結果による

福岡大学都市空間情報行動研究所(以下、FQBIC)は、2003年11月30日(日)に、大名地区歩行者通行量調査を実施いたしました。これは、2000年に実施した大名地区歩行者通行量調査の継続調査です。本調査は、最近、来街者数が増加したのではないかとされている大名地区の入込み来街者数の変化を明らかにするとともに、2000年時点の計測結果と比較し、大名地区内の人の流れがどのように変化しているかを捉えることを目的として実施したものです。その結果、2000年5月時点の43,854人に対し、入込み総来街者が54,755人と3年間で約1万人も増加していること、また、大名地区内でも南側や大正通り側の人の流れが大きく増加していることが明らかになりました。

詳細につきましては、下記をご参照ください。

福岡大学都市空間情報行動研究所 (FQBIC)

大名地区歩行者通行量調査結果のポイント

1. 大名地区の1日あたり^{#1}の入込み総来街者数は54,755人で、2000年5月時点43,854人に比べ、約1万人の増加。(＃1 10:00-19:00の時間帯)

2. 大名地区の計測地点別の通行量は、ビームス福岡店がある通りの出入口が依然第1位で変わらないが、西通り側の南側の計測地点の通行量が大幅に上昇している。

1位	西通り側のビームス福岡店がある通りの出入口(㉔)	21,361人
	(2000年1位 21,595人)	
2位	西通り側のユナイテッドアローズ福岡店がある通りの出入口(㉖)	16,411人
	(2000年3位 9,425人)	
3位	西通り側のシブス福岡店がある通りの出入口(㉕)	13,192人
	(2000年4位 9,207人)	

3. 大名地区の出入口にある計測地点別流入人口で、2000年に対する増加率が高かった主な場所は、以下である。

キキプレイスのある通りの出入口(㉗)	208.8%
2000年 113人 → 2003年 236人	
西通り側のユナイテッドアローズ福岡店がある通りの出入口(㉖)	173.5%
2000年 4,614人 → 2003年 8,007人	
国体道路側のTSUTAYA大名店横の通り出入口(㉙)	166.4%
2000年 963人 → 2003年 1,612人	
大正通り側の喜多村石油赤坂門給油所前出入口(㉚)	165.1%
2000年 1,162人 → 2003年 1,918人	
西通り側のシブス福岡店がある通りの出入口(㉕)	155.7%
2000年 4,013人 → 2003年 6,247人	
国体道路側の紺屋町商店街出入口(㉛)	146.7%
2000年 4,195人 → 2003年 6,152人	

4. ビームス福岡店、シップス福岡店、ユナイテッドアローズ福岡店の店前通行量は、シップス福岡店、ユナイテッドアローズ福岡店では、増加。一方、ビームス福岡店前では、減少。

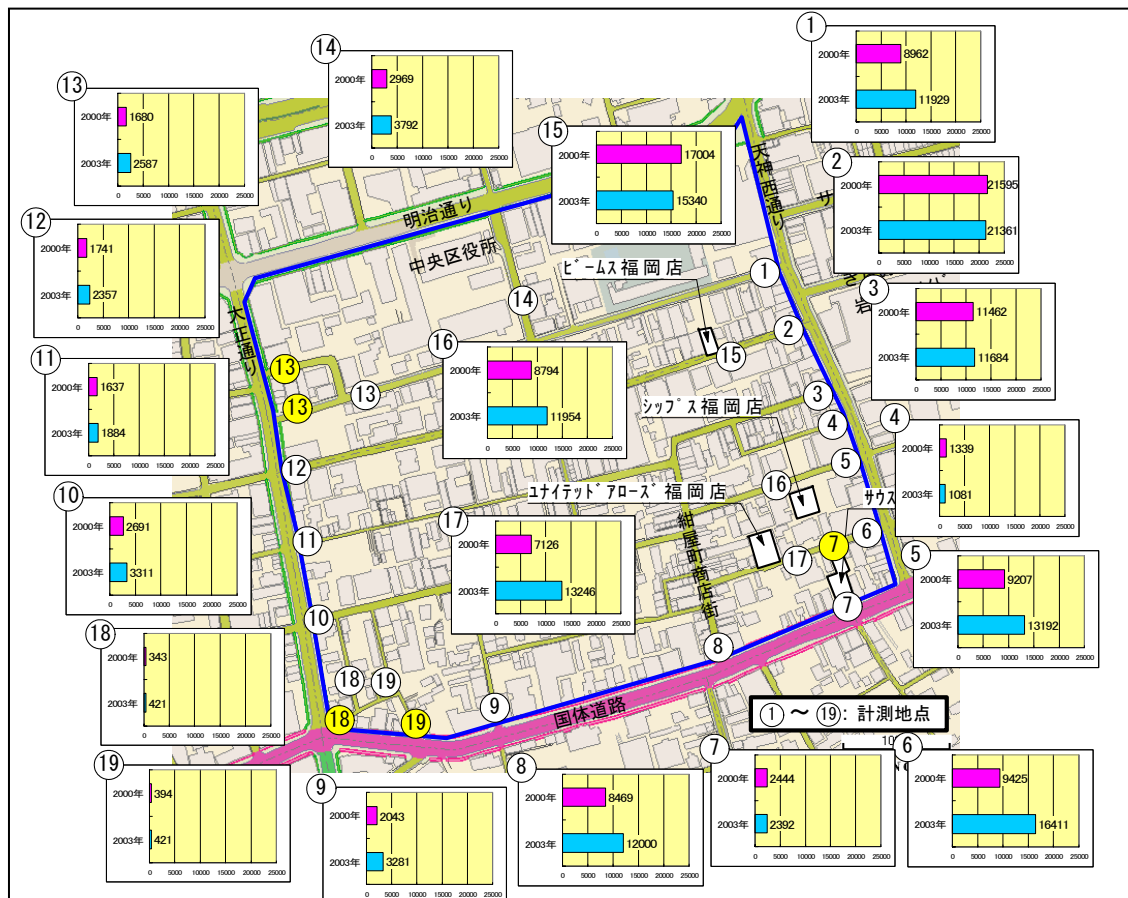
ビームス福岡店前	2000年	17,004人	→	2003年	15,340人
シップス福岡店前	2000年	8,794人	→	2003年	11,954人
ユナイテッドアローズ福岡店前	2000年	7,126人	→	2003年	13,246人

5. 大名地区の滞留人口^{#2}のピークは、13時45分の2,588人で、2000年時点のピーク13時45分の1,419人に比べ、約1,000人増加。(#2大名地区内に滞在している歩行者、自転車・バイクの数)

滞留人口の推移の傾向は、10:00から13:45にかけて増加し、それから減少するものの、17:30から再び増加する。2000年時と同様の傾向。

6. 自転車・バイクの滞留台数のピークは、19時00分の632台。

7. 大名地区への来街者の約90%は、買物・レジャー・食事目的の来街者。



黄色●は変更があった2000年の調査地点
 図 大名地区通行量調査計測地点と計測地点別通行量の比較

調査結果の考察

■ 調査結果のポイント1

- 大名地区の来街者数は、3年で約1万人の増加があった。2000年以降に大名地区で、若者向けの衣料品店、雑貨屋、飲食店、美容室など新規出店と集積がさらに進んでいることを意味している。

■ 調査結果のポイント2

- 計測地点別通行量では、ビームス福岡店へつながる出入口が最も多く、次いで、ユニテッドアローズ福岡店へつながる出入口、シップス福岡店へつながる出入口とつづいている。大名地区と天神地区との結びつきでは、依然きらめき通りが、最も大きいことを意味しているが、西通り国体道路付近とのつながりが急速に高まっている。

■ 調査結果のポイント3

- 計測地点別の流入人口の増加率をみると、西通り国体道路付近の⑤⑥の増加率が高い。また、サウスストリートに面した今泉とのつながり、および、大正通りとのつながりも強くなっている。キキプレイス、花形館、サウスストリートのサウスガーデンなどの新規立地による効果と思われる。

■ 調査結果のポイント4

- ビームス福岡店前の通行量は、2000年時点より約1,500人減少している。しかし、3店舗の店前通行量の中では、最も通行量が多く、現在も大名地区の最もにぎわいのある通りとなっていることに変わりはない。一方、シップス福岡店、ユニテッドアローズ福岡店前では、それぞれ約3,000人、6,000人増加しており、ビームス福岡店前の通行量にせまっている。国体道路付近の西通りへの新規出店などで、シップス福岡店やユニテッドアローズ福岡店周辺への集客力が高まったと考えられる。

■ 調査結果のポイント5

- 滞留人口がピークとなる時間は、13時45分で、今回も2000年と変わらない。しかし、今回は、ピークの滞留人口は、2,588人で、2000年の1,419人より、約1,000人増加している。また、滞留人口は、すべての時間にわたって、2000年を上回っており、大名地区のにぎわいが、2000年時点から一段と高まったことがわかる。

■ 調査結果のポイント6

- 自転車・バイクの滞留台数のピークは、19時00分の632台で、歩行者のピークの13時45分と対照をなす。また、自転車・バイクの滞留台数は、すべての時間にわたってほぼ一貫して増加し、最終時点の19時00分でピークとなっている。これは、飲食や飲酒目的で大名地区への来街者の来街手段あるいは、飲食店へのアルバイト・就業者の通勤手段となっていることが考えられる。駐輪場設備については、24時間営業の駐輪場の設備など考慮すべき点である。

■ 調査結果のポイント7

- 通行量調査と併行して、来街目的をきく、来街目的調査を少数のサンプルで実施した。日曜においては、大名地区の歩行者の9割は買い物・レジャー・食事目的での来街者であることがわかる。

2003年大名地区歩行者通行量調査 調査概要

1. 調査日:2003年11月30日(日)
2. 調査時間:10時~19時(9時間)
3. 調査対象地区:福岡市中央区大名地区
4. 計測地点: 大名地区の出入口の街路:15ヶ所
大名地区の外縁にある店舗出入口:1ヶ所(サウスサイドテラス前)
大名地区の店前の街路:3ヶ所(ビームス福岡店前、シッПС福岡店前、ユナイテッドアローズ福岡店前)
5. 計測対象: 歩行者, 自転車・バイク
6. 計測方法: 調査員が数取器で通行している歩行者, 自転車・バイクを方向別に計測する。ただし、自転車とバイクの区別はしない。
計測間隔は、15分を一区切りとしている。
7. 本調査の特徴
本調査は、通常行われている通行量調査と違い、当該地区を1つのブロックと考える。そのために地区の出入口となっているすべての街路に計測地点を設けて、それらすべての出入口での通行量を計測する方法で調査を行っている。従来の通行量調査では、調査地点を置いた街路の前を通り過ぎた人の数しか計測できなかったものが、この方法によって、当該地区の流入人口や流出人口、また入込み来街者数や滞留人口を時間帯別に把握することが可能である。

※参考 2000年大名地区歩行者通行量調査 調査概要

1. 調査日時:2000年5月28日(日)10:00~19:00
2. 調査対象地区:西通りの両側を含む大名地区
3. 計測地点: 西通り・大名地区の出入口となる街路:29ヶ所
大名地区の店前の街路:4ヶ所(ビームス福岡店前、シッПС福岡店前、ユナイテッドアローズ福岡店前、サウスサイドテラス前)
4. 計測対象:歩行者・自転車
5. 計測方法: 15分間を一区切りとし、調査員が数取器で通行している歩行者・自転車を方向別に計測

問い合わせ先

福岡大学都市空間情報行動研究所(FQBIC)

所長 齋藤参郎

担当:山城、中嶋、岩見、木口

〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

TEL:092-874-6827 FAX:092-874-6830

E-Mail:info@qbic.fukuoka-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.qbic.fukuoka-u.ac.jp>